

令和4年 水稻の病害虫発生状況（通年）

1 調査の概要

- (1) 育苗期調査施設・箱数…中通り：22 施設、52,791 箱
会 津：9 施設、22,443 箱
浜通り：6 施設、9,165 箱
- (2) 巡回調査地点・ほ場数…中通り：15 地点・120 ほ場
会 津：8 地点・64 ほ場
浜通り：7 地点・56 ほ場
- (3) すくい取り調査地点数…中通り：16 地点
会 津：9 地点
浜通り：8 地点

2 病害

(1) 育苗期病害

調査対象の育苗施設では、ピシウム属による苗立枯病及びばか苗病が確認されましたが、発生箱割合はいずれも平年よりやや低くなりました。その他の病害は発生が確認されませんでした（図1）。

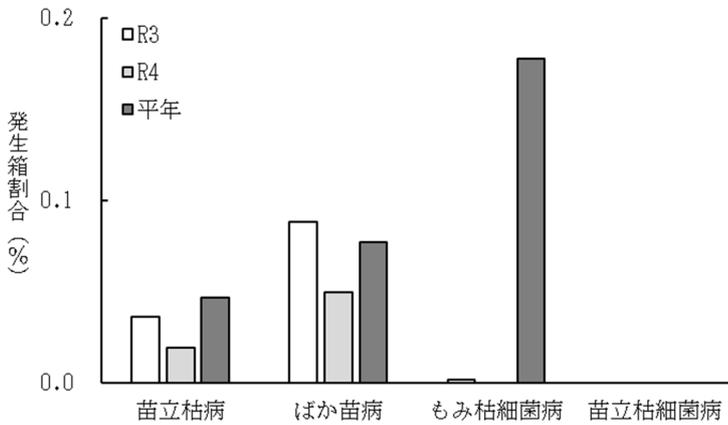


図1 育苗期病害の発生箱割合

(2) 葉いもち

巡回調査では、補植用置苗での発生は確認されませんでした。

BLASTAMによる感染好適条件は、7月上旬に浜通り、中旬には全域の広範囲で断続的に出現しました。

巡回調査による本田での初発確認は、中通り、浜通りが平年よりやや遅い7月下旬となり、会津がやや早い7月上旬でした。

8月上旬の発生ほ場割合は中通りで平年よりやや高く、会津、浜通りで低くなりました（図3）。

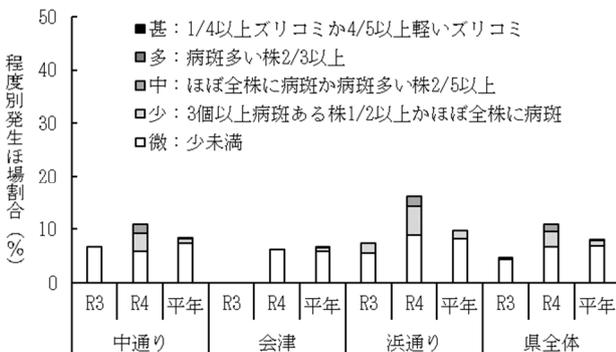


図2 葉いもちの発生状況（7月下旬）

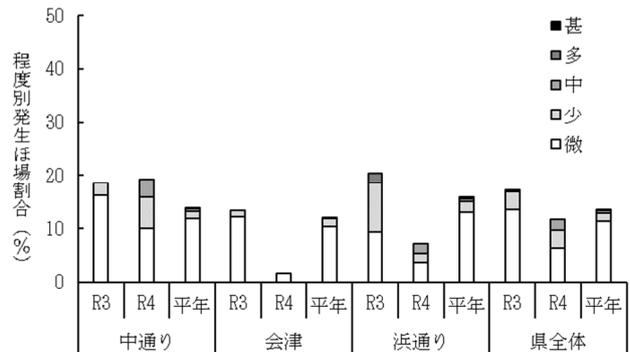


図3 葉いもちの発生状況（8月上旬）

(3) 穂もち

巡回調査による初発確認は全域で平年並の8月下旬でした。

9月上旬の発生ほ場割合は中通り、会津で平年より低く、浜通りでやや高くなりました(図5)。

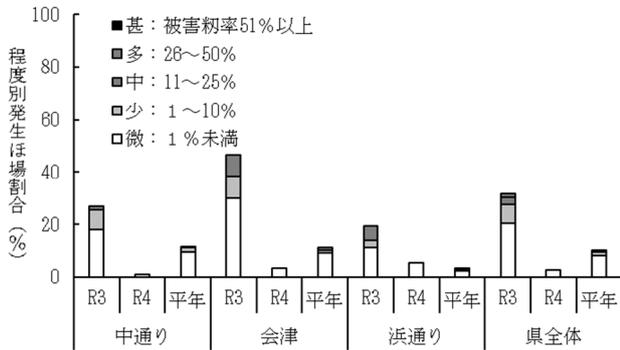


図4 穂もちの発生状況 (8月下旬)

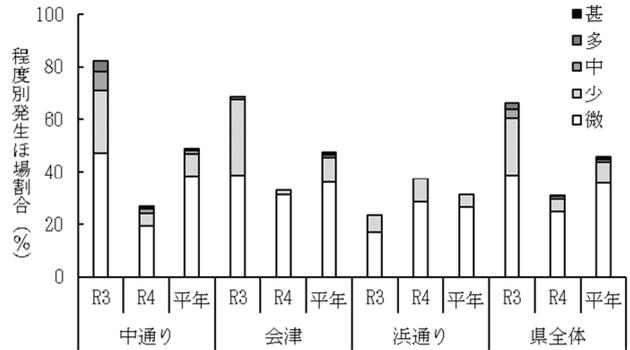


図5 穂もちの発生状況 (9月上旬)

(4) 紋枯病

巡回調査による初発確認は全域で平年並の7月下旬でした。

9月上旬の発生ほ場割合は中通り、浜通りで平年よりやや低く、会津でやや高くなりました。発生程度の高いほ場は確認されませんでした(図6)。

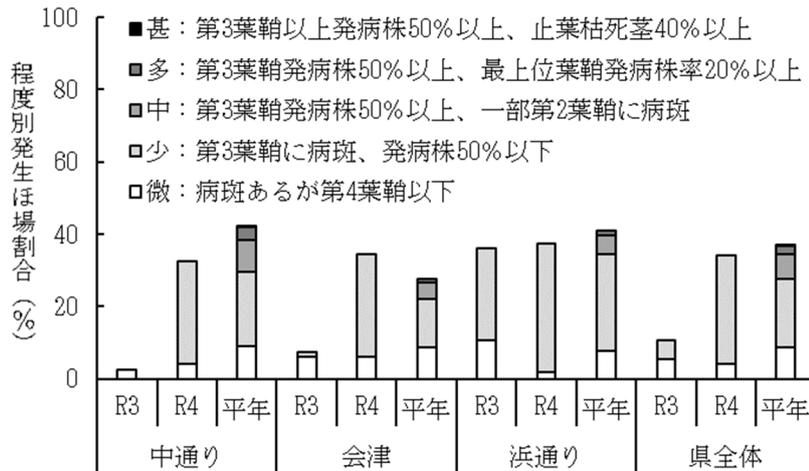


図6 紋枯病の発生状況 (9月上旬)

(5) 稲こうじ病

9月上旬の発生ほ場割合は全域で平年より低く、発生程度の高いほ場は確認されませんでした(図7)。

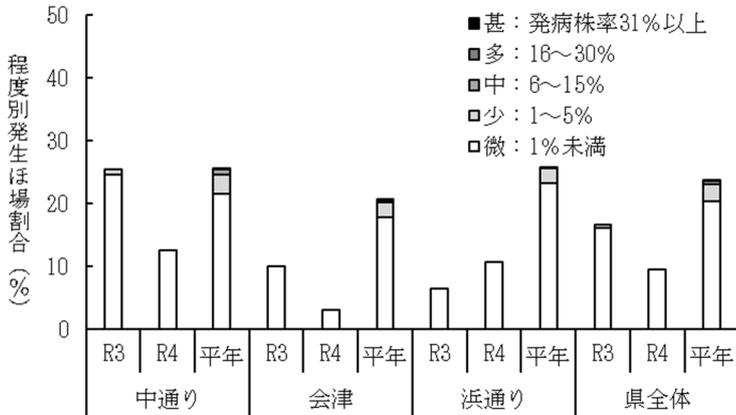


図7 稲こうじ病の発生状況(9月上旬)

(6) ごま葉枯病

8月下旬から一部の地域で発生が確認され、9月上旬の発生ほ場割合は中通り、会津で平年より低く、浜通りでは発生が確認されませんでした。いずれのほ場も発生程度は低く、穂枯れの発生は確認されませんでした(図8)。

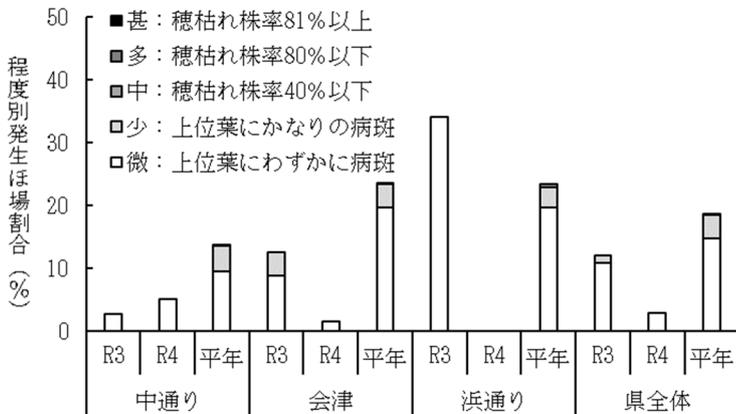


図8 ごま葉枯病の発生状況(9月上旬)

2 虫害

(1) イネミズゾウムシ

有効積算温度によるシミュレーションでは、成虫の侵入時期は平年より早くなりました。

6月上旬の発生ほ場割合は全域で平年より高く、中通り、浜通りでは発生程度の高いほ場も確認されました（図9）。

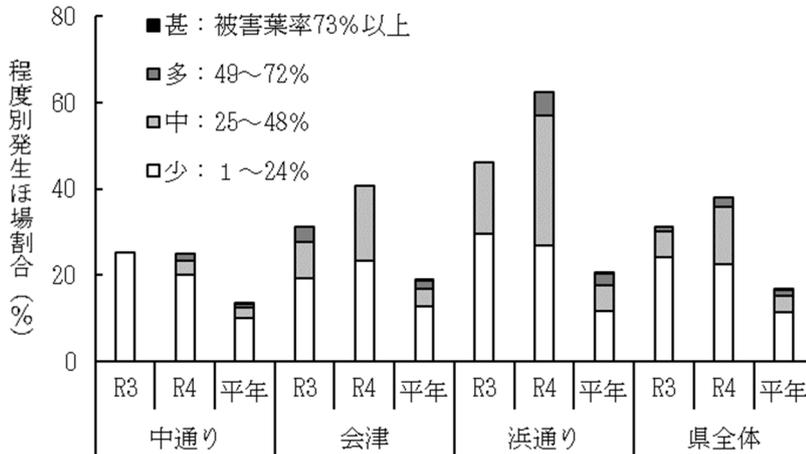


図9 イネミズゾウムシの発生状況（6月上旬）

(2) イネドロオイムシ（イネクビホソハムシ）

5月下旬の越冬成虫のほ場侵入確認地点数は平年並でした。

6月下旬の幼虫の発生ほ場割合は中通りで平年より高く、発生程度の高いほ場も確認されました。会津、浜通りでは発生が確認されませんでした（図10）。

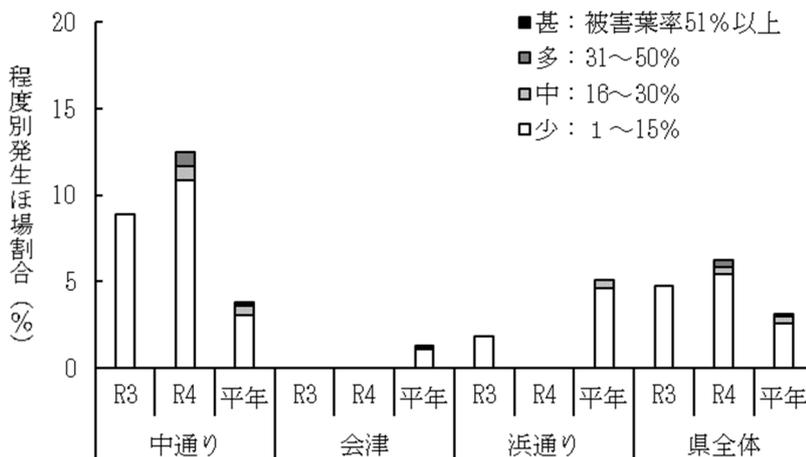


図10 イネドロオイムシ幼虫の発生状況（6月下旬）

(3) イネツトムシ (イチモンジセセリ)

会津及び浜通りに設置した青色粘着トラップでは、第1世代成虫の誘殺ピークは両地域とも平年並の7月中下旬、第2世代成虫のピークは浜通りで平年並の8月下旬に確認されました。総誘殺数は会津で平年並、浜通りで平年より多くなりました(図11)。

8月上旬の発生ほ場割合は中通りで平年並、会津、浜通りでやや低いから低くなりました(図12)。

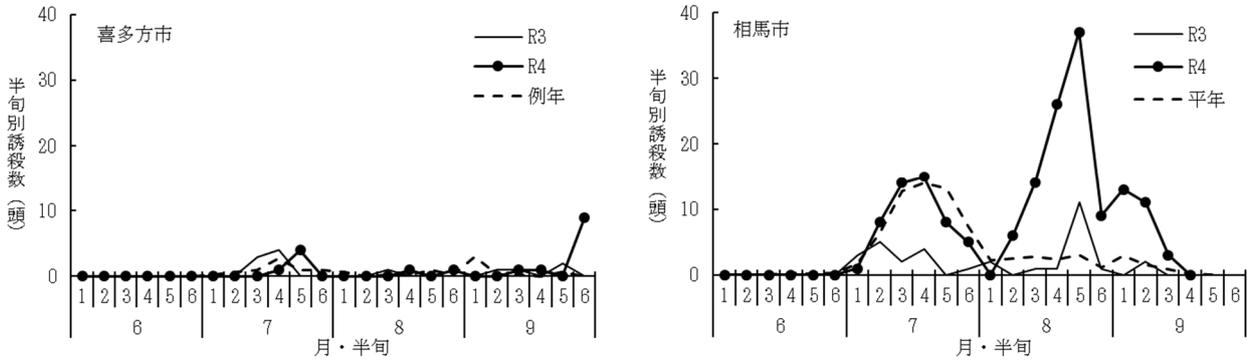


図11 青色粘着トラップによるイチモンジセセリ成虫の誘殺数の推移

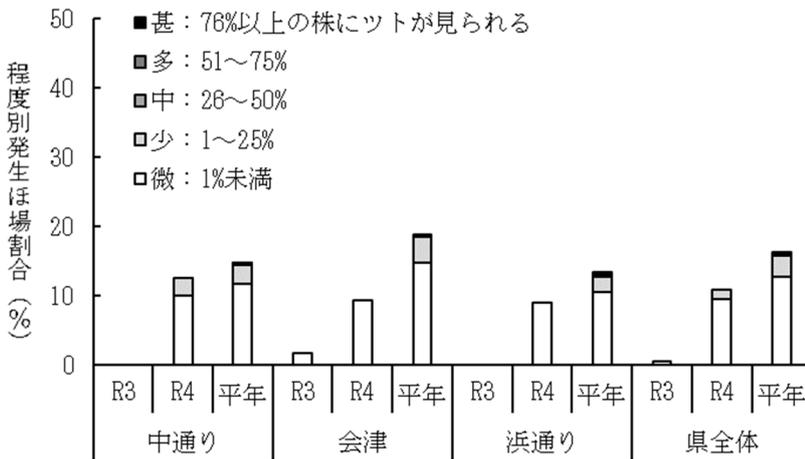


図12 イネツトムシの発生状況(8月上旬)

(4) イナゴ類

発生量は栽培期間を通じて平年並からやや少なく推移し、8月下旬の発生ほ場割合は中通り、浜通りで平年並、会津で平年より低くなりました(図13)。

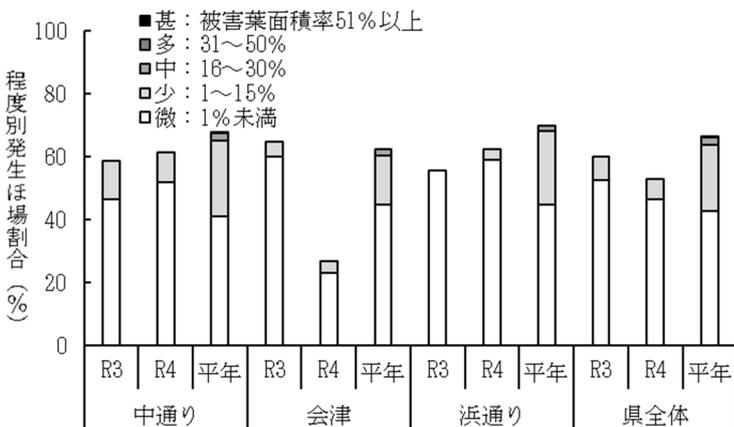


図13 イナゴ類の発生状況(8月下旬)

(5) ニカメイチュウ（ニカメイガ）

7月下旬の発生ほ場割合は全域で平年よりやや高いから高くなりました（図14）。

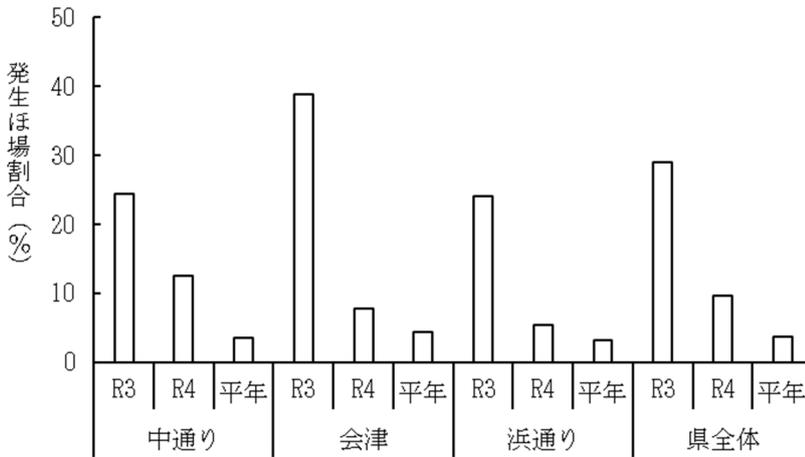


図14 ニカメイチュウの発生ほ場割合（7月下旬）

(6) 斑点米カメムシ類

6月から7月の畦畔雑草すくい取り調査では、発生量は平年並からやや多く推移し、7月下旬の発生地点割合は中通りで平年よりやや高く、会津、浜通りで平年並でした（図15）。

7月以降の水田内すくい取り調査では、発生量は平年並からやや少なく推移し、9月上旬の発生ほ場割合は中通りで平年より低く、会津でやや高く、浜通りでやや低くなりました（図16）

加害種別では全域でカスミカメ類、ホソハリカメムシ、中通りと浜通りでクモヘリカメムシが捕獲されました（図17、18）。

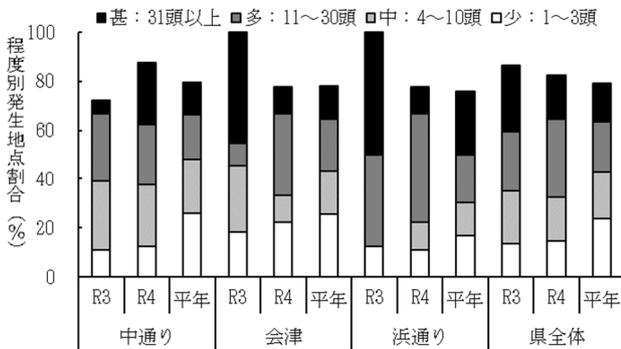


図15 畦畔雑草における斑点米カメムシ類の発生状況（7月下旬、県全体）

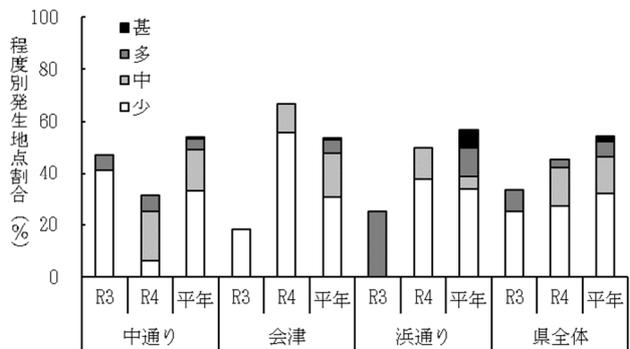


図16 水田内における斑点米カメムシ類の発生状況（9月上旬、県全体）

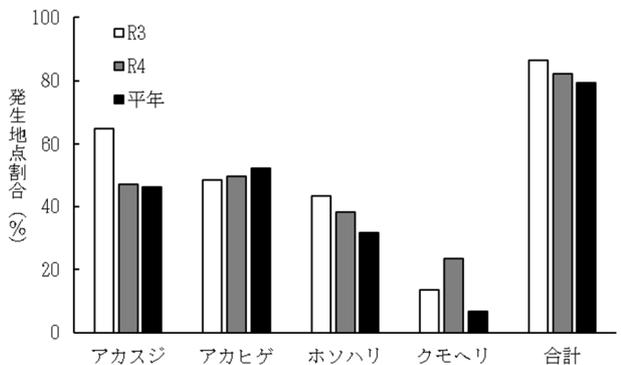


図17 畦畔雑草における斑点米カメムシ類の種別発生状況（7月下旬、県全体）

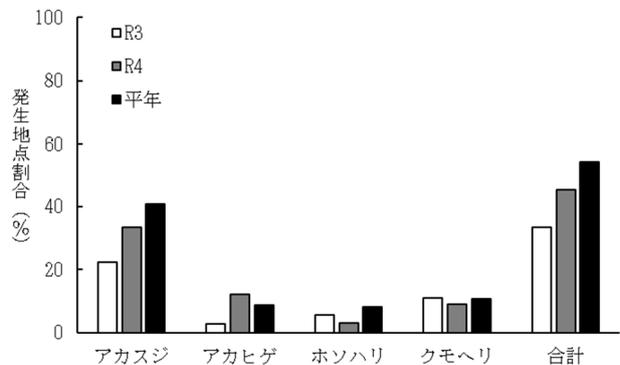


図18 水田内における斑点米カメムシ類の種別発生状況（9月上旬、県全体）